

「ボレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2022 年 5 月 25 日発行

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

ウクライナ緊急支援ドキュメント

第一便の救援物資が現地に到着 !!

【2022 年 2 月 24 日】 ロシア軍のウクライナへの侵攻、激しい攻撃に世界中が驚愕しました。チェルノブイリ救援・中部にとって、30 年以上に亘り支援という形でお付き合いしてきた国の友人たちの命の危険を案じ、馴染みのある美しい街・村の破壊された映像を目の当たりにし、無力感を感じていました。しかし 3 日後に・・・

【2 月 27 日】 私たちの活動にこれまでもご支援を頂いている宗教法人真如苑様に相談し、支援金のご提供によりウクライナ支援の道が拓かれました。この非常時に、どのように支援物資を現地に届けることができるか協議を重ねました。ウクライナへの外貨送金が危うい状況(当時)からドイツの協力団体宛てに送金し、ドイツで救援物資の調達、ドイツからポーランド国境まで輸送、ウクライナ国境へはジトーミルから消防士たち(非常事態局)が受け取りに行くという“ドイツ経由のルート”が決まりました。

【3 月 14 日】 ドイツの NGO「アクション・チェルノブイリ」と連携することになり、これまで互いに同じ病院を支援していたこともわかりました。500 万円の外貨送金完了。カウンターパート「チェルノブイリの人質」基金のドンチェヴァさんがニーズをまとめ、医薬品類、消防局の災害救助機材等のリストをドイツに連絡しました。

【3 月 25 日】 「アクション・チェルノブイリ」が必要な物資を調達(医薬品等 900 kg)後、車に積み込んで朝 8 時にウクライナへ向けて出発。バイエルン州プフライムトからチェコ、ポーランド・国境に近いプシェミシルまで、約 1,000 kmを輸送(9 時間)。ウクライナ側からもジトーミルの非常事態局の消防士たちが受け取りに国境へ。同日夕方、救援物資は非常事態局の車に積み替えられ、ジトーミルまで 500 km強を輸送(7 時間)。

【3 月 26 日】 夕方、無事に救援物資がジトーミルへ到着しました！

【3 月 28 日】 「チェルノブイリの人質」基金が、救援物資を必要な病院等へ配布しました。その後、「医薬品と共に生きる力をいただきました」と真如苑宛てに感謝の言葉が届けられました。
(戸村京子)



ドイツで調達された救援物資



アクション・チェルノブイリのメンバー



ジトーミルに到着した救援物資を下ろす
消防士



「人質」基金ドンチェヴァさん(左)と医師

支援をしてくださった皆さまへ 感謝のメッセージ

ドイツ→ポーランド→ジトーミル 1500 kmに及ぶ輸送を終え、無事救援物資を受け取ったジトーミルの各団体から感謝状が届きました。

2022年4月4日

親愛なる友人であり同胞である皆さん！

今日、我が国は戦争の地獄のさなかにあります。侵略者たちは私たちが平和に生活し働くことを許さず、敵の侵略の結果、繁栄していたウクライナの経済も破壊されました。

ウクライナ国民は、チェルノブイリ原発事故を始めとして、おそらく他のどんな国民よりも多くの困難を経験してきました。核の惨事という地獄のあらゆる領域をくぐってきた私たちは、福島第一原発事故後の日本国民の不幸と苦しみを受け止めました。そして平和と人命、財産を尊重することを、いつにもまして学んだのです。

チェルノブイリ原子力発電所事故の事後処理にあたった消防士たちに代わり、皆さんに、人道支援物資に含まれていた医薬品への心からの感謝を申し上げます。私たちの運命、健康と命に対して無関心でいられない皆さんのお気持ちは、涙が出るほど私たちを感動させました。

皆さんのご家族が、ゆるぎないご健康、和合と愛情に恵まれますよう、衷心よりお祈り申し上げます。

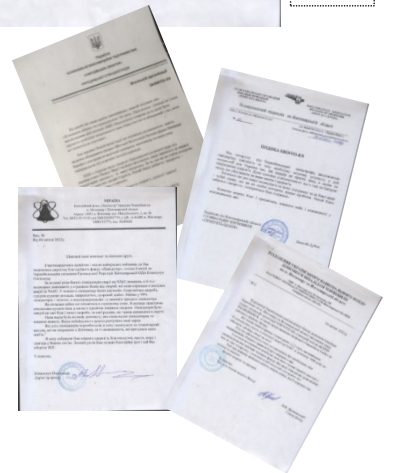
神が私たちを生き永らえさせ、困難な人生の道に誠実な友人とパートナーを送って下さったことを幸せに思います。戦争が終わり、自由で豊かなウクライナの地でお会いできることを信じています。

事故処理作業者である消防士たちに代わって

慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」代表 ボリス・チュマク



チェルノブイリの消防士たち基金からの感謝状



ナロジチ地区中央病院、プリピャチ・センター、リクビダートル基金、障害者基金からも感謝状が届きました



支援の医療品を受け取った病院スタッフ

「ウクライナ救援基金」へのカンパのお礼

「ウクライナ救援基金」の寄付窓口を開設してから約2か月。これまでに370件／1,200万円を超えるご寄付が寄せられました。皆様からの多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

銀行が近くになく、振込むのが難しいというお声もあり、銀行振込のほか、郵便払込やクレジットカードでも受け付けることに致しました。

同封の払込用紙をご利用の際は、「ウクライナ支援」にチェックを入れてください。

クレジットカードでのご寄付は、以下のサイトにアクセスしてください。

※備考欄に「ウクライナ救援基金」と入力してください。

(寄付ページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kessai>)

また、支援物資の報告や現地の情報などをFacebookでも発信しています。

ぜひFacebookページへの「いいね」や「フォロー」などで応援してください！！

(チェルノブイリ救援・中部 公式Facebookページ: <https://www.facebook.com/CHQchubu/>)

オンライン決済
寄付ページ



＜ウクライナ情報＞ ～2022年2月・3月・4月～

2月24日、ロシアの軍事侵攻により爆撃が始まり、25日、ウクライナは戦時状態宣言と戒厳令を発令。戦争状態へと突入していく。まもなく、チェルノブイリ・ホステージ基金のあるジトーミルにも爆撃が始まり、事務所前の25番学校が大破され、ホステージ基金事務所は爆風により破壊された。

このような状況下、3月5日、チェル救は緊急人道支援を開始する旨ホステージ基金へ伝え、3月7日「ウクライナ救援基金」を開設し、募金活動を開始した。以降、従来からのチェルノブイリ被災者支援に、戦時禍の支援―「ウクライナ緊急支援」が加わる。

同事務所のドンチェヴァさんは、人道支援物資の受取について、事故処理作業員、非常事態省幹部、その他様々な人々と相談し実施の準備を進めた。消防士たちがポーランド国境近くまで支援物資を受取りに

行き、ジトーミルへ陸送する事に合意。消防士たちは常時準備態勢にあり、どんな問題についても支援すると約束した。ウクライナ緊急支援の活動はドイツ「アクション・チェルノブイリ」の協力を得て実施している。



爆撃された第25番学校

◆.....◆ ★粉ミルク支援・・・・・・戦時禍の中で進捗した「チェルノブイリ支援」のひとつ



2021年度のミルクプロジェクトは、2022年2月初めに開始した。ミルク支援金50万円の日本からの送金は、8月半ばに終了している。

2月配布を始めたが、2月24日ロシアの軍事侵攻により、粉ミルクの配布を終わるまであと数日が足りなかったとの連絡があった。ジトーミルの会社に粉ミルクの入った箱はあるが、全ての車そして、医療関係は管理下にあり、また、ミルクを保管していた会社は事務所を閉鎖し、全てがストップした。しかし、ホステージ基金・ドンチェヴァさんは状況がなんとか安定すれば、粉ミルクを病院、孤児院に運び、支援を完了したいと考えていた。

3月2日、ジトーミル州ポフーニャ地区(前日爆撃にあった)のミルクを保管しているメディサン社は社の建物を開けてくれることとなり、オヴルチ病院、州立小児病院が取りに行くとの連絡。

また、3月11日ジトーミル州立孤児院は、32人の子どもたちが避難したが、寝たきりの重度障碍児達30人がそこで生活しており、この子どもたちのための脂肪分2.5%の粉ミルク、低アレルゲン性発酵乳粉ミルク、あるいはコンデンスミルク(粉ミルクを溶かすことができない場合に備えて。いずれも賞味期限の長いも

の)が不足しているとのことだった。ほかに洗濯用洗剤やパンパース(サイズ2～5)などが不足。

3月26日、州立孤児粉ミルクの配布について、HiPP社(ミルクのメーカー)は自らの義務を果たし、州立孤児院宛てに残っていた注文分を届けた。

各病院はすべて粉ミルクを受け取り、戦時下であるにもかかわらず持ち帰ることができた。ただコロステンだけは行程で多くの砲撃があったため、ミルクは届かなかったが、粉ミルクはメディサン社で保管されており、状況が落ち着き次第取りに来るとの約束になっている。その後、全ての病院・孤児院に配布され、4月7日報告を兼ねた粉ミルクの配布報告データが送られてきた。

(山盛)

* 汚染されていない粉ミルクやベビーフード提供 *

ジトーミル州立小児病院(136,192 円/32,000G)
バシユク記念ジトーミル市立小児病院(106,400 円/25,000G)
ナロジチ町議会管轄ナロジチ病院(ナロジチ地区中央病院のこと。42,900 円/10,080G)
オヴルチ市立病院(42,560 円/10,000G)
ウシヨムイル村議会管轄一次医療・保健センター(55,328 円/13,000G)
ジトーミル州立特殊孤児院(114,912 円/27,000G)

ウクライナの避難者支援

「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」がスタート！

(戸村京子)

ロシア軍による攻撃はまだまだ止まず、戦火を潜り抜けて国外へ避難しているウクライナ市民は 500 万人超(国連難民高等弁務官事務所 UNHCR 2022.04.20)となり、国内避難民は約 700 万人超(国際移住機関 IOM)。日本への避難民は 820 人(出入国在留管理庁 2022.04.30)に上っています。

現在、愛知県へ避難されている方は、わかっている範囲で21世帯40数名(5/6現在)、主に子どもを連れた女性たちで、親族の元を頼って言葉の分からない異国の地での不安な生活を始められています。(NPO)日本ウクライナ文化協会(JUCA)が、受け入れサポートを行っています。JUCAは、これまでから愛知県で暮らすウクライナ出身者を中心に活動している団体で、私たちチェル救とはウクライナからゲストを招聘した講演会へのご参加や、『母親たちの心をつなぐ手紙集』(2019年)の作成時に、ウクライナ語への翻訳の協力を頂くなどの交流があります。また、避難された方の中にはチェル救の支援活動地ジトミルから来られた家族が多くおられます。

(認定NPO)レスキューストックヤードでは、これまで愛知県から受託している東日本大震災の避難者支援活動の経験を活かして、「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」を立ち上げ、JUCAや名古屋市始め幅広いNPO団体等と連携しながら支援活動を行っていくことになりました。筆者(戸村)もチェル救からネットワークの一員として加わり、住居や生活物資の支援、日本語学習や子どもたちの教育支援、就労支援、心のケア等のサポートに当たっていきます。



チェルノブイリ事故 36 周年の追悼式典 (2022 年 4 月 26 日)

ジトミル州非常事態局前の記念碑の前等で、ロシア軍侵略の戦禍の下でも例年の追悼式典が行われ、チェル救から池田光司理事長名のメッセージを送りました。



事故処理作業の方々に献花



犠牲者の名を刻んだ

モニュメント



現在も汚染地で消火活動が続ける

消防士たち。背景は消防局

今中さんの言葉から考えること

安藤 則子 さん

テレビ局員時代から長年チェルノブイリ救済の取材を続けてくださった安藤さん。

今中哲二さんの講演会の感想とともに、今の思いを寄せていただきました。

「プーチンさんは、はたして“裸の王様”か？“追い詰められた王様”か？とにかく、早く戦争を止めてウクライナから撤退して欲しい！」

3月13日にチェルノブイリ救済・中部が開いた講演会で、今中哲二さんは訴えた。会場で、多くの方が賛同なさったのではないだろうか。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、2国をめぐる歴史の解説が話題の中心となった。

テレビ局員だった私は、東京電力福島第一原発事故の取材で、今中さんのウクライナ訪問や飯舘村調査に同行させていただいた。今中さんは科学者として常にエビデンスを求め、大切になさってきたと思う。今回、チェルノブイリ原発事故によるベラルーシ汚染地域の先天性障害や小児甲状腺癌のデータが紹介さ

れた。被害はデータの操作などで一旦は隠されかけたが、今中さんの働きかけもあり明るみに出た。数字は苦難を背負わされた生身の子どもたちを指している。大国に翻弄されてきたウクライナ史を聞いた後であり、フェイクニュースが溢れる現状も作用して、グラフはより胸に突き刺さった。データを重んじる今中さんだからこそその言葉ではないだろうか。

「原子力の専門家として私に説明できることは、事故による被害全体の一側面に過ぎず、被災者にもたらされた災難の大きさを放射線測定器で測ることはできない」そのチェルノブイリ原発事故から36年にして、プーチン大統領がもたらした戦争。惨状の映像に呆然としながら、私は、自分がどうあるべきなのかを問い続けている。

〈〈 2022 年度通常総会&報告会のご案内 〉〉

日時 6月11日(土)午後1時30分～4時30分

会場 なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや 研修室

* 名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライブラザ 12階

* 地下鉄伏見駅6番出口より南へ徒歩7分

- 第1部 通常総会 午後1時30分～2時30分
- 第2部 ウクライナ緊急支援報告会
午後2時45分～4時30分

報告会では、ロシアによるウクライナ侵攻で甚大な被害を受けているチェルノブイリの被災地への緊急支援の活動内容をお伝えします。またパネル展示も行います。

第2部報告会については、事前にお申し込みの上、ぜひご参加ください。

また、正会員以外で総会に参加ご希望の方は事務局へご連絡ください。



事前予約制です

申し込み締切 6月6日(月)
〈先着順 30名まで〉

申込先 チェルノブイリ救済・中部 事務局

メール: chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

TEL.FAX: 052-228-6813

※コロナウイルス感染予防のため入場数に制限があります。必ずお申し込みの上ご来場ください。

チェルノブイリで被曝したロシア兵

ロシアによるウクライナ侵攻は一時も早く終えなければならない。ウクライナ市民の被害はもとより、ロシアの兵士にとっても悲劇をもたらすものでしかない。チェルノブイリで被曝したロシア兵たちは今後、36年前の事故処理作業員らと同じ運命をたどる事になる。

初日からチェルノブイリを管理下に

2月24日にウクライナ侵攻を開始したロシア軍は首都キエフ陥落を狙い、ベラルーシから侵攻し、初日からチェルノブイリ原発を制圧し管理下に置いた。チェルノブイリは首都キエフまで車で約3時間、ここを拠点に首都を攻めようとした。チェルノブイリ原発の職員211名は通常の時間交代が許されず、3月31日にロシア軍撤退までの間、厳しい管理下に置かれた。その間に原発の外部電源を切られ、使用済み燃料冷却が出来なくなる恐れ等の問題も起こった。

「赤い森」に滞在したロシア兵

しかし、チェルノブイリに侵攻した約4千名のロシア兵たちはもっと厳しい状況下に置かれた。原発の西側に広がる「赤い森」に3月31日の撤退まで滞在させられたのである。「赤い森」とは1986年4月26日に爆発したチェルノブイリ4号炉から飛散した膨大な放射性物質で松の木が枯れ死に、森全体が赤く染まったまま今も立ち入り禁止区域となっている所である。広さは約400ヘクタール。放射能汚染レベルは場所により違うが、2020年の測定では15~600 μ Sv/h (毎時マイクロシーベルト) だった。兵士らはこの森の中の2個所で塹壕を掘り、約1か月間、汚染した枯れ木で焚き火をし暖を取り、食事をし、眠った。当然、木々だけでなく土壌も放射能で強烈に汚染しており、そこに穴を掘れば汚染した粉塵を吸い、焚き火をすれば汚染した煙を吸う。強烈な内部被曝は避けられない。ま

た3月28日には近くで森林火災が発生した。アメリカのNASAはキャンプ場周辺の火災を空から撮影している。火災が自然発火なのか兵士らの炊き火が原因だったかは不明である。何れにせよ内部被曝は避けられなかった。

ロシア軍兵士らの被曝

兵士らは当然、強烈な外部被曝も内部被曝も受けた筈である。被曝の実態は不明だが撤退前日の3月30日に、このキャンプからロシアのマークVと赤十字マークを付けたPAZバス(ロシアのノボグラードに拠点を置くバス会社名)7台が、ベラルーシのゴメリにある医療施設に約400名の兵士を運んだ。この病院は「ベラルーシ国立科学-放射線医学と人間生態学のための診療機関」と確認されている。被曝した兵士らの治療が目的だったと思われる。原発周辺の放射線レベルは、ロシア侵攻前は9.46 μ Sv/h だった(IAEAによる)が、撤退後は65 μ Sv/h に跳ね上がっていた(ウクライナ政府)。戦車や車両が走り回り土壌粉塵をまき上げ、汚染した木材を燃やしたのが原因と思われる。今後当分は原発職員も被曝増加のリスクを免れない。特に、兵士達を被曝させたロシア軍指揮官の責任は重い。

(引用文献: The SUN, New York Post, Leuters, Center for Information Lesilience, INVERSE 等)。

(2022年5月4日 河田)

1、信田沢搾油所撤去作業、完了

南相馬市から賃貸でお借りしていた信田沢搾油所の返還期限が 4 月末に迫る中、4 月 20 日に菜種種子、絞り粕に加え、ロッカー、テーブル、椅子などの家具類について搬出が完了しました。これらは奥村さんの関係する「愛アグリ」の倉庫で保管させていただくことになりました。

またロータリークラブからお借りしていた搾油機は 27 日に搬出が完了しました。

搾油機も作業場も長年お貸しいただき感謝いたします。また撤去作業に当たられた皆さんにも感謝申し上げます。

2、油菜ちゃん 500 kg のオファー

5 月に入り 8 月納期で 500 kg のオファーがありました。上記のように現在、搾油所は休止しているため注文を受けるのか否か、また受ける場合は搾油の委託も考えなくてはなりません。この件と、6 月定期総会の持ち方が 5 月例会の議題となります。

＊皆様には搾油施設が安定するまでご迷惑をおかけします。なるべくご不便をおかけしないよう努力します。

伊那市で今中哲二さん講演会のビデオ上映会 開催 〈4 月 24 日〉

4 月 26 日のチェルノブイリ原発事故 36 周年を記念して伊那市で今中哲二さんの講演会のビデオ上映会が開かれました。これは 3 月にチェルノブイリ救援・中部が名古屋で行った講演会をビデオ撮りしたものです。名古屋での講演会当日は、伊那市では「ロシアによるウクライナへの侵攻に抗議する集会・デモ」を開いたため、講演会に参加できない方もおり、是非伊那でも開催したいと考えビデオ上映会を開催しました。

名古屋での講演会の様子をあらかじめ見て、ウクライナ戦争の話題が多く、チェルノブイリ事故について学ぶにはバランスが悪いと考え、

第1部：チェルノブイリ原発事故の解説

(現地訪問者：小牧、原の写真から)

第2部：今中さんの講演会ビデオ上映
としました。

直前の案内となったので参加人数は少なかったのですが、有意義な上映会となりました。これまで伊那では 3. 11 福島を忘れない！集会が行われ、講演、デモも行われてきましたが、今年は新型コロナの蔓延のため 3. 11 の取り組みが縮小されたこともあり、節目の日に上映会が出来て良かったと思います。

(原 富男)

長野市で 「市民の憲法講座」で講演会 〈5 月 3 日〉

5 月 3 日、憲法記念日に長野市で信州憲法ネットというグループ主催の「憲法講座」が開かれました。主催者からチェルノブイリ救援・中部の活動について話すよう依頼され 1 時間 30 分ほどパワーポイントを使って話させてもらいました。

依頼通り「活動報告」を中心に話し、最後の時間に「ウクライナ戦争」の被害や緊急支援の様子、さらにウクライナ戦争に乗じた日本の軍備増強、敵基地攻撃の動きなどについても少し話しました。私としては依頼通りに話したのに、ウクライナ戦争中ということもあり取材にみえた新聞社、テレビ局は、戦争や憲法関連の部分の発言のみ放映し、私としてはあれれ・・・でした。もう少し時節をわきまえて話すべきだったかもしれません。

(原 富男)

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆3月 寄付／会費 607,000 円
- ◆4月 寄付／会費 1,418,167 円
- ◆2021 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
5,511,190 円
- ◆2022 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
1,418,167 円
- ◆ウクライナ救援基金 12,486,181 円（3/7～5/5）
- ◆会員数 185 名（正会員・賛助会員）
- ◆ポレーシェ読者数 577 名

～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆一般寄付
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
 - ◆ウクライナ救援基金
三菱UFJ 銀行 名古屋営業部 普通 6949211
 - ◆郵便振替 00880-7-108610
- 〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- * クレジットカードでも受け付けております

事務局だより

●今号よりポレーシェをリニューアルしました。B5 から A4 サイズへ、表紙のデザインも一新、書体も変更。長年親しんでいたポレーシェも、体裁を変えて新しい風を吹かせてみようとの試みです。編集スタッフもにぎやかさを増しました。事務局も今まで以上に編集にかかわっていきます。

●E テレ「日曜美術館」を見ていたら、ウクライナの著名画家、マリヤ・プリマチェンコの描いた鳥と、チェル救のトレードマークの「届け鳥」の類似に気づきました。これはチェル救の肖像権の侵害になってしまうのでは？と心配になり、美術愛好家の知人に 2 つの鳥を見比べてもらうと、「届け鳥は、むしろピカソの有名な鳥の絵に似ているのでは？」との返答。ピカソの真似なんて恐れ多くてするわけがない。「鳥の空似」ということで今後も心おきなく「届け鳥」を活躍させていきます。（市原）

伝言板

- 現在、南相馬再生協議会の事務所の移転にともない、「油菜ちゃん」の生産を一時中断しています。
油菜ちゃんの不足状態が続いておりたいへんご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。

運営委員会 記録

●4月1日（土）開催 10 名出席

ウクライナ侵攻の戦況およびチェル救の関係者の安否情報／粉ミルク、事故処理作業支援の方法について／ウクライナ緊急支援のルートの検討／支援金の活用について／油菜ちゃんの生産中断について／定期総会の準備

●5月6日（土）開催 12 名出席

粉ミルク・事故処理作業支援状況について／ホステージ基金の業務委託費の送金について／次便のジートミルへの緊急支援の進捗／ポレーシェのリニューアル／再生協議会の移転完了および菜種、機材の状況／今後の測定隊の実施について

※次回は 6 月 4 日（土）開催

印刷 エープリント

a-pri@peach.ocn.ne.jp
TEL & FAX 052-871-9473
名古屋市熱田区波寄町 20-14
営業時間：平日 9：00-18：00



特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〔地下鉄・JR「鶴舞駅」より徒歩 5 分〕

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL & FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00 ～ 17:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>